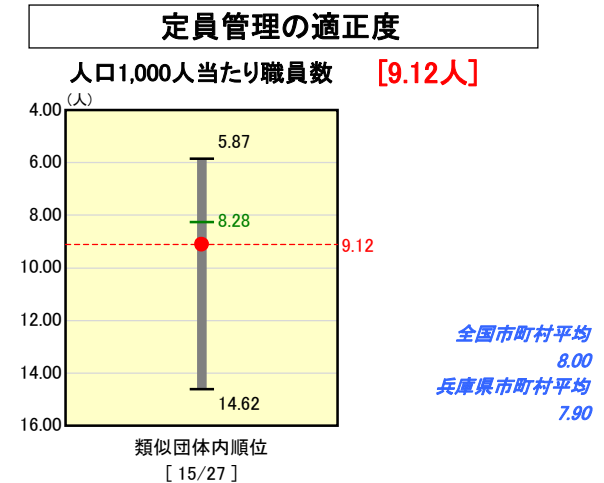
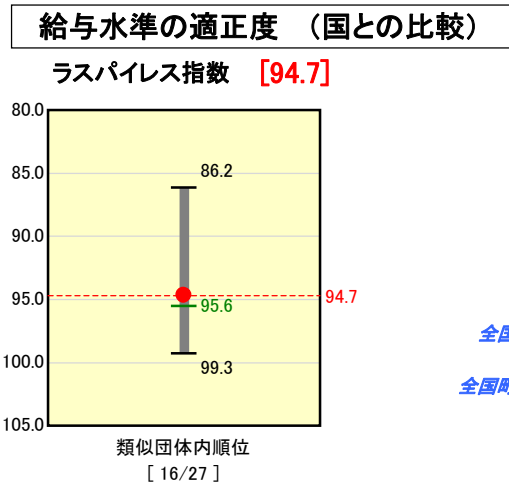
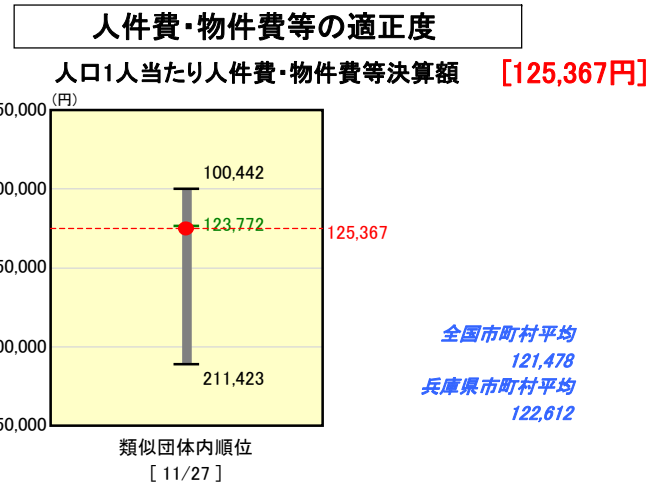
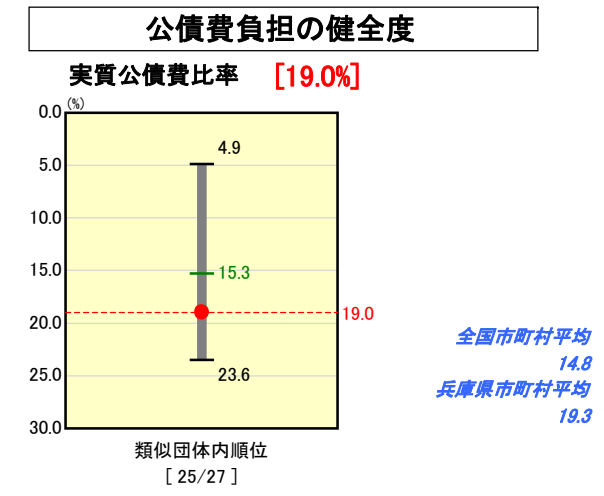
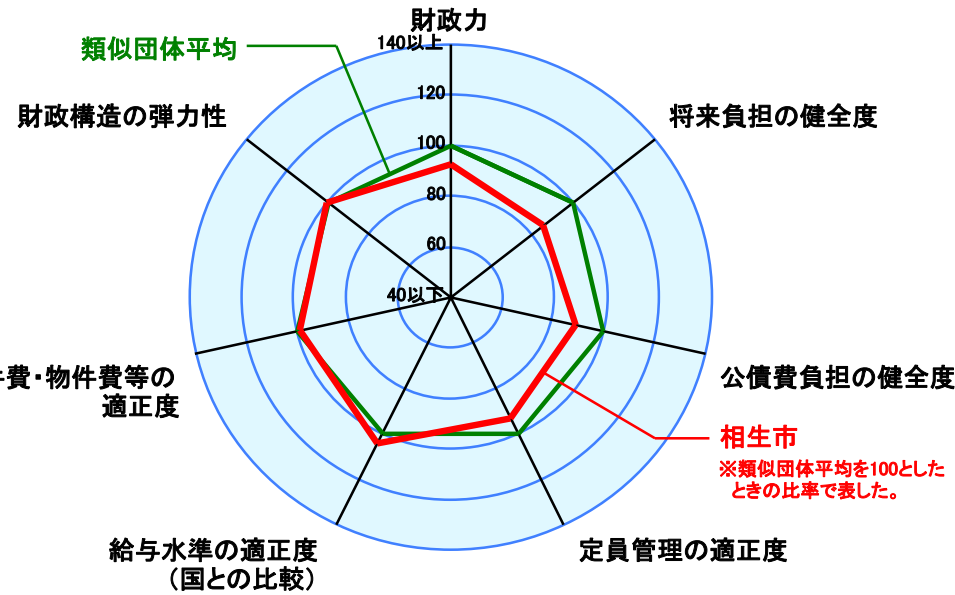
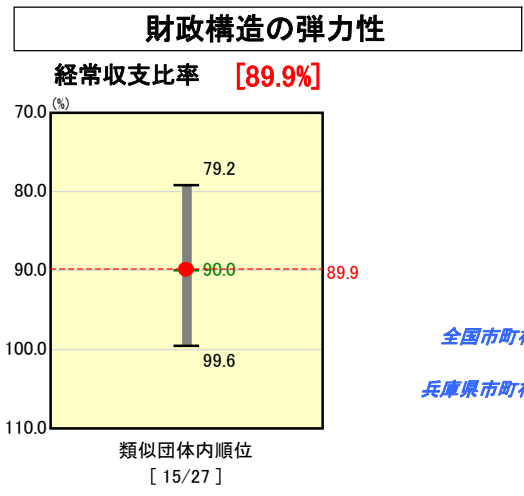
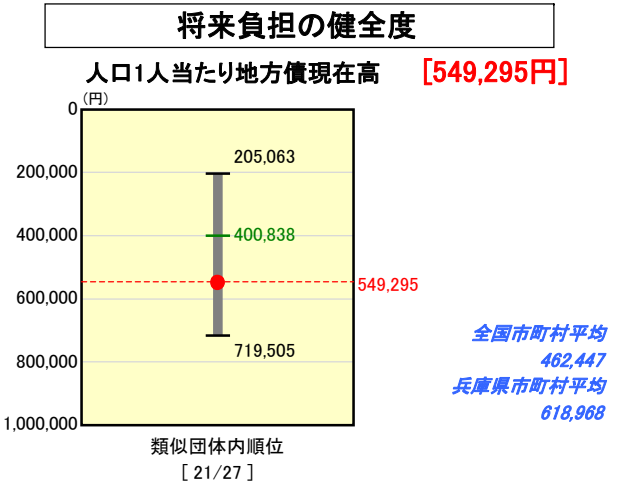
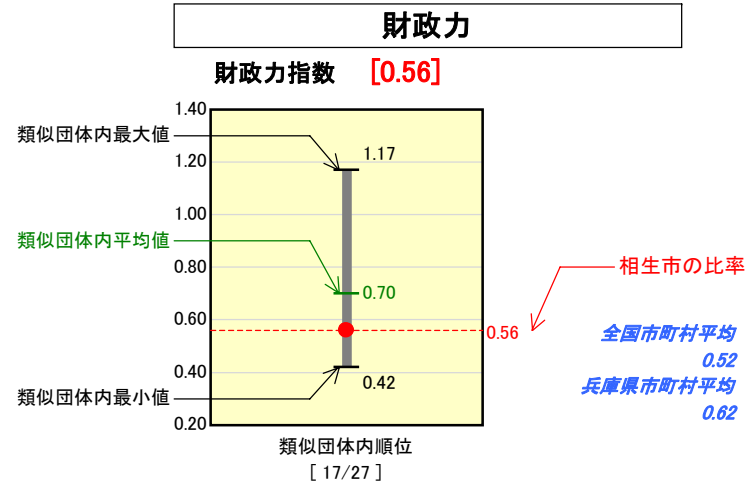


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

兵庫県 相生市

人口	32,795人	(H18.3.31現在)
面積	90.44	km ²
歳入総額	14,252,416	千円
歳出総額	13,780,160	千円
実質収支	457,356	千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数 : 3年連続の上昇となったが、基幹産業である造船業の低迷や高齢化などにより、依然、類似団体平均より低い状況が続いている。平成18年度から5か年の「相生市行財政健全化計画」に基づき、徹底した歳出削減(5年間で20%減)に取り組むとともに、積極的な歳入確保に努める。

経常収支比率 : 対前年度比0.3ポイントの上昇となった。景気の低迷等による市税収入の減(対前年度比△1.5%)などにより経常一般財源が減少傾向にあることなどから、**財政構造の硬直化**が続いている。「相生市行財政健全化計画」で職員数の削減(概ね12%削減)などにより人件費の13.8%減を目標とするなど、歳出削減に努めることとしている。

ラスパイレス指数 : 給与制度については、これまで国公準拠を基本として適正な給与水準を維持してきたが、本指数は、経験年齢階層によって国平均より低い階層が多く、全国市平均・類似団体平均をととも下回っている。対前年度比較においては、0.2ポイント上昇しており、今後も、引き続き給与適正化に取り組むこととしている。

人口一人当たり地方債現在高 : 実質公債費比率と同様、大規模事業に伴う市債が多額となっており、平均よりも高い数値となっている。新規発行を抑制しているものの、人口減に伴い、人口一人当たりの残高は増加している。平成20年度以降、徐々に減少傾向に転じると見込んでいる。

実質公債費比率 : 土地区画整理事業や下水道事業などの都市基盤整備に伴い借り入れた市債の償還費が多額となっていることから、他団体の平均と比べ高い数値となっている。平成20年度に公債費のピークを迎えることから、今後数年間は高い水準で推移すると見込んでいる。「相生市行財政健全化計画」において投資的経費を削減(56.7%減を目標)することとし、市債の新規発行の抑制(概ね10億円以内)により、市債残高の削減に努める。

人口1,000人当たり職員数 : 第2次定員適正化計画(H12~H17)において、最終計画値を47人下回る削減を行ったが、人口減等により、平均値よりも多い結果となっている。今後、「相生市行財政健全化計画」に基づき、人件費の削減に努めることとしており、第3次定員適正化計画(H18~H22)においては、アウトソーシングの推進などにより、さらに41人(概ね12%)の削減を図ることを目標としている。

人口1,000人当たり人件費・物件費等決算額 : 概ね平均値ではあるが、人口は減少傾向にあるため今後も歳出削減を進める必要がある。「相生市行財政健全化計画」に基づき、予算額を5か年で20%削減することとしており、今後も人件費をはじめとする経費の削減に努める。